

口頭発表 2 / 災害対策・危機管理

[O-02-4] 2022/10/09 17:50~18:50 第9会場 展示棟 1F 会議室 3-A

## 新型コロナウイルス感染症蔓延下における薬剤師の地域貢献に関する意識調査

[筆頭著者]小林 きぬ子（一般社団法人 茅ヶ崎寒川薬剤師会 [神奈川県]）

[共著者]原 みよ子・花島 邦彦・森川 厚子・大久保 敦子（一般社団法人 茅ヶ崎寒川薬剤師会）

【目的】一昨年から続く新型コロナウイルス感染症蔓延の中で、薬剤師に新たな業務が求められてきた。ワクチンの希釈・分注作業、PCR等無料検査事業、抗原検査キット販売、抗ウイルス薬の備蓄、感染者への薬剤の宅配、長期休暇中の調剤対応などである。これらの業務のほとんどは、その参加判断が個々の薬局や薬剤師に委ねられている。当薬剤師会において上記業務への参加意向を確認した際に、薬剤師間でその意識に大きな差が見られた。そこで、保険薬局で働く薬剤師は、コロナ禍のような非常事態に地域貢献することに対しどのような意識を持っているのかアンケート調査し、更に実務実習生にも同様のアンケートを行い、今後の薬剤師の在り方について考察することとした。

【方法】当会会員薬局（81店舗）に勤務する薬剤師157名にアンケート用紙を送付し、郵送にて回収した。学生に対する調査は、本年4月に当地区及び藤沢市、鎌倉市にて実務実習を受けていた5年生30名に回答を求めた。アンケートは所属および氏名がわからない形で回収した。調査内容は、ワクチンの希釈・分注作業、PCR等無料検査事業、抗原検査キット販売、陽性患者宅への宅配、ラゲブリオ対応に対し、参加の有無、参加理由、不参加理由、事業への考え、今後の参加希望等である。

【結果】回答者数は、薬剤師157名（会員70名、非会員87名）、学生30名であった。PCR等無料検査事業についての調査結果では、参加薬剤師25%、不参加薬剤師75%。参加者の多くは肯定的な意識であった。不参加者の50%は参加したかったと答え、50%はやらずに済んで良かったと回答。今後の希望として参加希望が60%、参加拒否が21%、報酬次第が19%であった。学生への調査結果は、参加希望が70%、参加拒否が4%、報酬次第が26%であった。

【考察】薬剤師法に薬剤師の任務として公衆衛生の向上及び増進が明示されており、調剤報酬改定においても災害時等の地域貢献が求められているが、少なからず参加を拒否する薬剤師が存在し、報酬次第で参加するという薬剤師も多いこと、学生でも報酬次第で参加を考えると回答した学生が多いことを確認した。現役薬剤師だけでなく学生の段階から、倫理教育や地域貢献の重要性を教育する必要性を感じた。

【キーワード】薬剤師業務 地域貢献 コロナ対応 倫理教育 薬学生